

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	安部 武生
論文担当者	主査 廣瀬 宗孝
	副査 石戸 聡
	副査 戴 毅
学位論文名	The role of pain catastrophizing in pain perception among patients with rheumatoid arthritis without clinical signs of inflammation (活動性炎症のない関節リウマチ患者の疼痛における破局的思考の役割)
論文審査の結果の要旨	
<p>【背景】痛みは個人の感覚および体験であり、生物学的要素、心理的要素、社会的要素に影響を受けることが知られている。慢性疼痛は痛みの原因が明らかな慢性二次性疼痛と、原因が明らかでない慢性一次性疼痛の2つに分類されるが、関節リウマチの炎症による痛みは、慢性二次性筋骨格痛に分類される。しかし炎症の証拠がないにも関わらず関節痛を訴える非炎症性疼痛がしばしば問題となり、RA患者の痛みには慢性一次性筋骨格痛を含む可能性がある。学位申請者らは、この非炎症性疼痛において、認知的側面である痛みの破局的思考が重要な役割を果たすと考え、活動性炎症のないRA患者の疼痛と破局的思考の関係について観察研究を行った。</p> <p>【方法】RA患者で治療開始6か月以上経過し、3か月以上主要な治療内容の変更がなく、炎症反応正常(CRP<0.5mg/dl)で、関節エコー検査を実施して画像的寛解が確認された81名を対象とした。疼痛の評価にVAS、破局的思考の評価にPain Catastrophizing Scale (PCS)、精神医学的因子の評価にBrief Scale for Psychiatric Problems in Orthopaedic Patients: BS-POP、身体機能評価にHealth Assessment Questionnaire: HAQを用いた。これらの因子とVASを目的変数とした多変量解析を行った。</p> <p>【結果】総PCSはVAS、BS-POP、HAQの全てで関連因子として抽出され、特にVASについては関連する唯一の因子として抽出され、破局的思考は身体機能障害や精神医学的因子と強く関連しながら、疼痛に対する唯一の関連因子であることが示された。</p> <p>【結論】以上より学位申請者らは、RAの非炎症性疼痛において破局的思考は、慢性一次性筋骨格痛の発症や維持において重要な関連因子である可能性を示唆したと考える。</p> <p>以上の内容より学位授与に値すると判断した。</p>	